



どうも天候が不順です。関東地方は6月にならないうちにはやくも梅雨入りです。そもそも、6月は国民の休日が一日もありません。それでいて北海道を除くと梅雨の季節。農家にとっては大事な田植えの季節ですが、毎日通勤・通学する人間にとっては有難くない季節です。何だかTPPを巡る対立のような話です。雨が降ったからと言って、学校はやすんでくれません。一学期に文化祭をやる学校では、その準備たけなわなところもあるかもしれません。先生方も授業に行事にてんてこまいのことでしょう。

今月も、そんな多忙な先生方の力になるような情報提供や活動の情報を報告いたします。

◆ 目次

【 1 】 最新活動報告

5月の活動を報告します。

【 2 】 イベントカレンダー

これからの活動の予定などを紹介します。

【 3 】 授業のヒント

【 1 】 最新活動報告

■ 札幌部会 No.7 を開催しました。

日時；2013年5月18日(土) 14:30-17:00

場所： アスティ 45ACU1604 教室

内容概略：参加者23名。今回は日銀や証券業協会からも参加がありました。

自己紹介のあと、篠原代表より各地の活動報告がありました。次に、河原和之先生(立命館大学講師)より、資料「ネタ・ゲーム・討論を通じて思考力・判断力を培う経済の授業」を用いて、東大阪の中学校で取り組んでこられた授業開発の方法について講演がありました。生徒の現実を突破するための方法開発に努力してきたこと、テーマを発見するためのアンテナの張り方、調査、資料の収集など自らうごくことで多くの教材が生まれてきたその歴史とノウハウを紹介されました。

ついで、各先生より提案、報告がありました。川瀬先生(札幌開成高)より、札幌部会の今後の活動内容についての提案、中村先生(札幌光星高)より、「消費者教育推進のための調査研究事業」の研究成果について説明、証券業協会より、授業に役立つ経済セミナー」のPR、金融広報委員会より、各種教材等の紹介、佐藤先生より、8月6日に行われる道政研の大会についてPRが行われました。

内容の詳細は下記のHPをご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/Sapporo/Sapporo007report1.pdf>

■京都部会（第 19 回）を開催しました。

日時：2013 年 5 月 24 日(金) 19:00～21:00

場所：同志社大学 良心館

内容概略：参加者 6 名。篠原代表者が中国出張のため不参加であったため、西村先生（同志社大学）から「先生のための夏休み経済教室」の日時と場所および講演内容などについて報告がされました。その折、行動経済学についての考え方と参考文献についての簡単な紹介がされました。また、絹川温子氏より 5 月 18 日に実施された札幌部会についての報告が行われました。

続いて、川上敏和先生（同志社大学）より、授業に役立つ「需要の価格弾力性」のレポートがあり、弾力性と様々な価格政策の具体的な内容についての説明がされ、質疑が行われました。

内容の詳細は下記の HP をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/kyoto/kyoto019report.pdf>

■東京部会（No.58）を開催しました。

日時：2013 年 5 月 28 日（火）19 時 00 分～21 時 30 分

場所：日本大学経済学部本館 2 階会議室

内容概略：参加者 14 名。冒頭、篠原代表から札幌部会の報告および最近の活動報告がありました。それを受けて、夏休み経済教室の確認と内容の検討が行われました。案内チラシは 6 月上旬に各学校に送付されること、HP 上からの受付が開始されていることなどが確認されました。

ついで、今年が目玉企画「エコノミストと授業を作る」に関して、高等学校関係の三本の報告がありました。杉田先生（千葉西高）からは、効率と公正をベースとした社会保障の授業の構想が提示され、世代間格差をメインに授業提案を予定することになりました。宮崎先生（都立国際高）からは厚労省が構想している年金教育の研究会のデータをもとにした授業構想が提示され、多くの質疑が交わされ議論が沸騰しました。高橋先生（都立桜修館中等）からは、需給曲線を使った市場の授業の提案がされ、これも議論がなされました。それぞれの授業提案は、実際に教室で試みた上で夏の教室で再度吟味する予定です。

最後に、新井（都立小石川中等）より、筑波大学での講義を文章化のドラフトと、新指導要領での「政治・経済」の新教科書の比較紹介の資料が提示されました。教科書では、経済の冒頭で希少性、機会費用を扱ったものが登場するなど変化があることが紹介されました。

内容の詳細は出来次第 HP にアップします。

【 2 】 イベントカレンダー

これからの主な予定を日程順に掲載します。

■6 月以降の予定

定例部会のお知らせ

（1）東京部会（No.59）を開催します

日時：2013 年 6 月 26 日（水）19 時 00 分～21 時 00 分

場所：日本大学経済学部 本館 2 階【中会議室 2】

参加方法など詳細は以下の HP をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/tokyo/tokyo059flyer.pdf>

(2) 大阪部会 (No.34)を開催します

日時：2013年7月13日(土) 18時00分～20時00分

場所：同志社大学大阪サテライト

大阪市北区梅田 1-12-17 梅田スクエアビルディング 17階

参加方法など詳細は以下の HP をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/osaka/Osaka34flyer1.pdf>

(3) 京都部会 (No.20)を開催します

日時：2013年7月19日(金) 19時00分～21時00分

場所：同志社大学 良心館 4階第二共同研究室

参加方法など詳細は以下の HP をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/kyoto/kyoto020flyer.pdf>

(4) 札幌部会 (No.8)を開催します

日時：2013年9月14日(土) 10時30分～16時30分(予定)

場所：北海道教育大学・駅前サテライト教室

参加方法など詳細は決定次第 HP にアップします。

■夏休み経済教室の受付がはじまりました

日程は以下のとおりです。

名古屋地区：8月1日高校向け，2日中学向け (ウインクあいち)

大阪地区：8月5日中学向け，6日高校向け (天満橋・国民会館)

福岡地区：8月8日中学向け，9日高校向け (天神ビル)

東京前期：8月12, 13日 高校向け (東証)

東京後期：8月19, 20日 中学向け (東証)

参加申し込みは以下の HP から可能になっています。

<http://www.tse.or.jp/learning/education/kyoin/natsu-keizai/index.html>

内容は、前号でも紹介いたしました。講演に真壁昭夫先生(信州大)、講義に小巻泰之先生(日本大)、野間敏克先生(同志社大)、篠原代表(同志社大)などが予定されています。

また、今年が目玉企画「経済の授業をエコノミストとつくる」という現場教員と経済学者の連携プログラムを新たに各会場で行います。高等学校での授業提案は東京部会で検討がされています。東京会場では、大竹文雄先生(大阪大学)の講義も計画されています。中学校向けでは、経済教育の関係者も含めての「みんなで話そう」の時間も予定されています。

同種のセミナーが名古屋、福岡で同時期に開催されますが、ちらしや「参加の勧め」をご覧ください、趣旨と内容を検討のうえご参加いただければと思います。また、お知り合いの先生方、教職志望の学生諸君にもご案内

いただければ幸いです。

■ネットワーク関連団体の動き

(1) 第31回 授業のネタ研究会 IN 関西

日時：8月24日 9:30~18:00

会場：東大阪市市民会館（近鉄永和駅下車すぐ）

<http://www.econ-edu.net/announcement/neta/31th%20neta20130824.pdf>

(2) 社会科民間教育団体交流会

日時：8月1日 9:30~17:00

会場：高津ガーデン（近鉄上本町下車5分）

<http://www.econ-edu.net/announcement/neta/Minkandantai20130801.pdf>

(3)金融広報中央委員会からのお知らせが二つあります。

A) 金融広報中央委員会「教員のための金融教育セミナー」のご案内（7月29日開催）

<http://www.shiruporuto.jp/event/2013/13semi/index.html>

B) 「金融教育に関する小論文・実践報告コンクール」作品募集

（9月30日作品応募締め切り）

<http://www.ron2013.jp/>

【 3 】 授業のヒント

■温故知新作戦

タイトルは勇ましいけれど中身は簡単です。

要は、昔の経済はどんなだったということを確認する作業をさせてみようということです。そこから現代との比較ができれば歴史の授業にもなるし、公民の授業の歴史的記述の授業にも役立ちます。

一番簡単なのは新聞の縮刷版を持ち出して、比較させることです。

株式欄で有名企業の株価の変化を調べても面白いでしょう。また、ちょっと高度だと図書室の古い新書などで変化の大きな地域のものを取りあげて、そこでの記述がどうなっているかを比較させる手もあります。中国に関する記述などは30年前の本などと比較すると、人間の予知がいかにも不正確かがわかり、現在の動きだけを見てはダメだということを実感できるかもしれません。

ここでのポイントは、一つは比較する視点や対象をはっきりさせて拡散させないことです。新聞などは発見が多い分調べ学習が散漫になりかねませんから要注意です。もう一つは、整理された資料を使うのではなく、生の素材を自分の目で確認することです。なんといっても実物の迫力です。

この作業、生徒にやらせなくとも先生方が、授業準備のなかでやってみると、学者や評論家のレーティングができます。経済関係などはこんな人がこんなことを言っていると驚くこともあります。同じように昔の教科書を出して、通読することも発見が多く、勉強になります。なお、この作業での必需品はマスクです。なにしろ古い本や資料はほこり

の巣ですから、アレルギーのある生徒や先生がやる場合は要注意です。(新井)

【 4 】編集後記 (みみずのたはこと)

時代に遅れてしまっているなどあらためて実感しました。

模擬裁判のコンテストのルールを確認するなかで、参加生徒にパソコンや情報機器の持込を許すかどうかという議論になった時です。私などは、肉体派、自作のメモ以外はいらぬという意見だったのですが、大半は制限なしの意見でした。生徒も、限られたプレゼン時間のなかで、ワープロを使えば字数がわかり、残り時間なども簡単に推定できるから賛成というしっかりした意見を述べていました。うーん、確かにそうだよな。テストの日程表をケータイでパチリと撮ったり、板書だって写真で撮る時代ですからね。多分、タブレット端末をもって弁護をしたり、論告をしたりする時代はすぐ来るとこのことのように。授業のスタイルもそうなる根本的に変わるか？知的活動のあり方はどう代わるか？

新しい知性がそこから生まれるかどうか、楽しみのような、不安なような。(新井)

=====
登録に心当たりのない方、今後配信を希望されない方は下記会員ページよりお手続き下さい。

<http://www.econ-edu.net/aboutus/contact.html>

=====
感想を「オープン討論室」に書いております。



編集・発行 : 経済教育ネットワーク

————— (C) Network for Economic Education ◆◇